●宇土マリーナハウス

UTO MARINA HOUSE

宇土マリーナは、
マリンスポーツ及びレクリエーション活動を通じて
海に親しむ機会と憩いの場の提供を目的として
計画されたものである。
公共としてのマリーナとは何かを考え、
都市デザイン的な視点がこれからの
ウオーターフロント開発には欠かせないと考えた。
その結果エリア全体をマリーナパークとして捉える
提案を行っている。
各施設を海沿いに
駐車場をループ状に配置することによって、

Kumamoto Artpolis
K·A·P
くまもとアートポリス
熊本県
くまもとアートポリス事務局
熊本県土木部建築課 〒862-8570 熊本市水前寺6-18-1
☎096·383·1111(6215)

ふらっと遊びに来れる公園とし、マリーナを生活の場へ
近づけていこうという試みである。
中心となるマリーナハウスは
マリーナの管理運営機能に
マリーナパークへ研修などに訪れる人々のための
機能を加えたもので、海を近くに感じられるように
ドックシステムを望む位置に配されている。
なお、1999年の「くまもと未来国体」ではヨット会場となる。

K·A·P —● 宇土マリーナハウス

●建築概要

公園に集う人々やマリーナを生活の場とする人々にとっての「家」であり「街」であるようなイメージがマリーナハウスには求められていると考えた。そこで魅力的な町並みが形成できるような骨格をつくる為に、ひとつながりのマックスではなく、いくつかの建築を寄せ集めたイメージで設計が進められた。
まず機能的に必要なボリュームを連結させた最小限の基本モデルを作成し、それらをひきはなしていく作業を行うことによって、クレバスのような残余空間を多数つくりだそうと試みた。それぞれのボリュームは連続体メソッドによってモデリングされ、互いに連続したテクスチャーの素材が与えられている。
共用部分が少ない建築であるが、内部と外部を反転して扱うことによって、内外部を意識させない群造形の建築を作り出そうとした。また、ボートヤードに分散させた修理庫、艇庫もスケールアウトしないように形態を幾何学的に出来る限り還元し、同様のテクスチャーを与えることによってマリーナパーク全体の連続性を高めていくように考えている。

●建築家プロフィール

吉松秀樹（よしまつ ひでき）

1958年	兵庫県生まれ
1982年	東京芸術大学建築科卒業
1984年	東京大学大学院修士課程修了
1984年～1987年	磯崎新アトリエ
1987年～1991年	東京芸術大学建築科助手
1991年	アーキプロ開設
1998年	東海大学建築学科助教授
現在	千葉大学講師
	インターメディウム研究所講師
	灰塚アースワークプロジェクト顧問　ほか

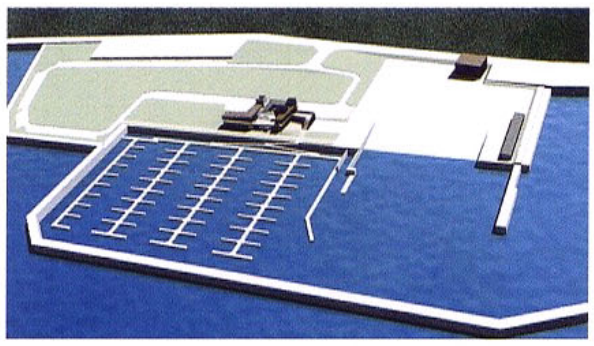
●主な作品

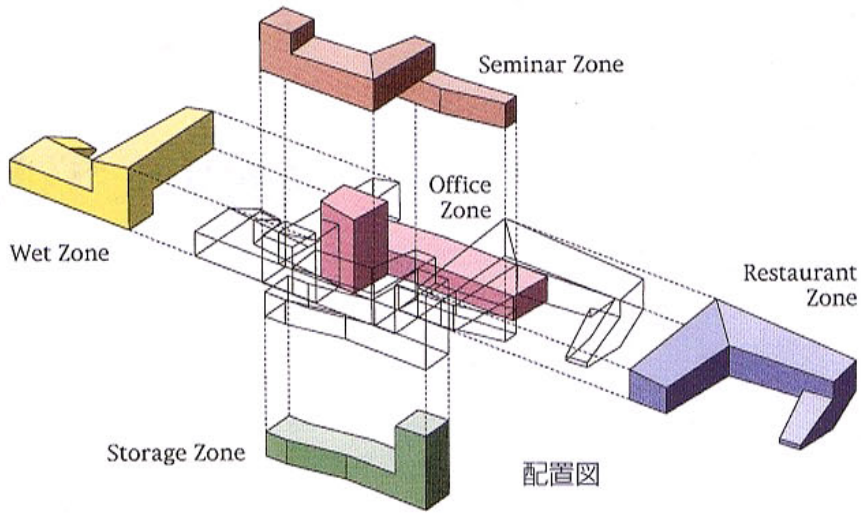
宮崎のゴルフクラブハウス、小野デンタルオフィス、太田邸コンプレックス、灰塚アースワークプロジェクト　ほか

1989年	SD ReviewSD賞
1994年	SD ReviewSD賞
1996年	東京建築士会住宅建築賞　ほか

●建築データ

名称／宇土マリーナハウス
所在地／宇土市下網田町字御興来3084-1
主要用途／マリーナハウス、修理庫、艇庫
事業主体／宇土市
設計者／吉松秀樹
施工者　建築／西松建設九州支店、上野工業所
　　電気／昭電社、上田電気工業
　　機械／ミナミ冷設、鶴城総建
敷地面積／90,000㎡
建築面積／1,619.92㎡
延面積／1,980.36㎡
階数／地上2階（マリーナハウス、修理庫）、
　　地上1階（艇庫）
構造／鉄筋コンクリート造＋鉄骨造（マリーナハウス）、
　　鉄骨造（修理庫、艇庫）
外部仕上
　　屋根／フッ素樹脂塗装アルミ合金板立平葺
　　外壁／フッ素樹脂塗装アルミ合金板立平葺、樹脂系
　　薄塗り仕上材スポンジゴテ仕上（マリーナハウス）
　　フッ素樹脂塗装アルミ合金板立平葺、
　　顔料混入押出成形セメント板（修理庫）
　　フッ素樹脂塗装アルミ合金板立平葺、
　　押出成形セメント板（艇庫）
施工期間／1997年6月―1998年8月
総工事費／544百万円





配置図

PHOTO/石丸 捷一